

事務局:〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5 森ビル(視聴覚ビル)2階  
電話/FAX:03-5251-2133 e-mail:jet-office@japet.or.jp  
日本教育工学会ホームページ <http://www.japet.or.jp/jet/>

ISSN 1340-9913

年頭挨拶

## 創立 20 周年を振り返って

会長 清水 康敬

昨年(2004年)に本学会は創立20周年を迎え、記念事業を種々行いました。2005年の新春を迎え、創立20周年を総括してみたいと思います。

### 1. 創立 20 周年記念事業

創立20周年を記念して実施しました事業を以下にまとめてみます。

#### (1) 英文略称をJSETに変更しました

本学会は、創立以来JET(ジェット)という略称を使ってきましたが、国際的にみてわかりにくいとの指摘がありました。そこで、本学会の英称Japan Society for Educational Technologyの頭文字をとってJSET(ジェイセット)と変更しました。また、それに伴いJSETのロゴマークをデザインし、ニューズレター、学会論文誌、学会ホームページに使っています。

#### (2) 学会論文誌のデザインを変更しました

論文誌表紙を新たなデザインとしました。明るいイメージとなり好評を博しております。

#### (3) 学会ホームページをリニューアルしました

学会の顔となります学会ホームページを新しいデザイン、新しい構成にしました。また、学会のURLとして新たに<http://www.jset.gr.jp/>を取得して、外部委託によるサーバで提供することにしました。

#### (4) 会員データベースを新たに開発しました

学会員に対して細かなサービスができるように、新しく会員データベースを開発しました。会員は、会員専用ページにアクセスして会員登録情報(住所、所属機関等)や会費納入状況を確認することができます。そのため、変更を要する時の学会事務局への連絡などが容易となりました。

なお、会員専用ページはID/パスワードで認証し、SSLで暗号化して通信内容を保護しています。

#### 本号目次

創立20周年を振り返って-----	1	秋の合宿研究会の報告-----	8
ショートレター増刊号のご案内(第2報)-----	3	秋の産学協同セミナーの報告-----	10
論文誌特集号のご案内(最終報)-----	4	第10期第13回理事会議事録-----	11
冬の合宿研究会のご案内(第2報)-----	5	新入会員/学会日誌等-----	12
研究会の開催案内・発表募集・報告-----	6		

## **(5) 電子投稿を開始しました**

インターネットを利用した学会論文誌への電子投稿を開始しました。会員専用ページから「論文を投稿する」ボタンをクリックして、電子投稿することができます。また、編集委員会から示された条件付採録に対する修正原稿の提出もこのメニューから行うことができます。勿論、今まで通りプリントした原稿を直接郵便などでお送りいただくこともできます。

## **(6) 論文査読管理システムを開発しました**

学会に投稿された論文等の査読管理業務を円滑にするために、論文査読管理システムを開発しました。このシステムは編集委員会における論文著者と査読者からの審査結果のやりとりや、編集委員会における決定などをサポートするシステムです。また、投稿した論文が事務局で受理されたか、査読中なのか、などを確認することができます。

## **(7) 全国大会受付を電子化しました**

全国大会の発表申込のインターネットによる電子受付システムを開発しました。このシステムを昨年(2004年)の全国大会の申込受付として利用しました。受付システムでは会員のIDとパスワードが必要となりますが、IDとパスワードを忘れた会員には再発行をしました。また、発表者は年会費を納入された会員であることが発表の条件となっていますが、この条件も自動的にシステムがチェックするようになっています。

## **(8) 創立以来の学会の歴史をまとめました**

創立以来のニューズレターを全て調べ、20年間の行事やニュースを整理して「学会の歴史」としてまとめました。その結果を学会ホームページに掲載しました。

## **(9) 創立以来の研究発表のデータベースを作りました**

学会論文誌に掲載された論文、全国大会における一般研究、課題研究、シンポジウムにおいて発表された予稿、研究会で発表された資料について、題名、著者、発表種別、発表セッション、発表年を整理してデータベース化し、学会ホームページから検索できるようにしました。このデータベースは本学会の会員だけが利用できます。

## **(10) 全国大会において記念行事を行いました**

昨年(2004年)9月に東京工業大学で開催されました全国大会において創立20周年記念行事を行いました。まず、遠山敦子元文部科学大臣に基調講演をお願いし、「これからの学校と大学 確かな学力と教育の情報化、大学教員に求められること」について貴重なお話をいただきました。また、米国のISTE(International Society for Technology in Education)の理事であるパイパー先生をお招きして「Thinking forward: Theory and Application of Information and Communication Literacy in Schools」についてお話をいただきました。さらに、韓国教育工学会(KSET, Korean Society for Educational Technology)と共催で課題研究のセッションを設け、「e-Learning: policies, practices and research」について討論しました。

## **(11) 文部科学省から研究委託を受けています**

ICT(情報コミュニケーション技術)を活用した教育が重要となり、教育の情報化が求められています。しかし、何のために学校コンピュータやインターネットの環境を整備する必要があるのかについても問われています。そこで、ICTを活用した教育による学力向上に関する調査研究を文部科学省から委託されました。その成果についてはまとも次第会員に報告します。

## **2. 新役員の選出について**

今年は役員選考の年となります。会長の任期は4年間までとなっていますので、新しく選出される会長に引き継ぎたいと思います。また、理事と評議員、監事も半数交代となります。2月には正会員による選挙が行われますので、投票をよろしくお願いいたします。選挙では、学会援助に対してボランティア的に仕事をしてくれる方が役員となることを願っています。特に理事には役割を分担してボランティアでも活動していただくこととなりますので、理事会に出席でき、メールでのやり取りに積極的な方を選出していただきたいと思います。

私は4年間会長をさせていただきましたが、一部の理事にロードが多くかかったことが気になります。本学会の場合、理事は名誉職のような位置付けではないと日頃から思っている次第です。新会長の下に新しい体制ができることを期待しています。

# ショートレター増刊号の論文募集のお知らせ

日本教育工学会論文誌 Vol.29, Suppl.の発行

論文受付締切：平成 17 年 4 月 4 日(月) 編集委員会事務局必着

日本教育工学会論文誌 Vol.29, Suppl.は、年 1 回発行されるショートレターの増刊号です。投稿規定および原稿執筆の手引きを参照の上、奮ってご投稿下さい。

ショートレターの採録条件は、Vol.27より以下のようにになりましたのでご注意下さい。

(詳細は、JET117号参照)

1. ショートレターは、刷り上がり 4 ページ厳守。  
(4 ページを超えるものは採録しない)
2. ショートレターでは、筆頭著者(ファースト・オーサー)は本学会会員であることが条件です。あるいは、筆頭著者が投稿時に入会手続きおよび会費等を納入することが必要です。なお、各会員は本ショートレターを年 1 編に限り投稿できます。
3. 平成 17 年 12 月に発刊の予定です。

ショートレターの内容については、例えば、以下のような内容が考えられます。

- ・ 全国大会や研究会で発表した内容をまとめたもの
- ・ 教育実践をベースにした実践と知見をまとめたもの
- ・ 教育システム開発など
- ・ 教育工学研究としての速報的な内容
- ・ 卒業論文や修士論文等としてまとめた内容、など

なお、ショートレターで掲載された内容を、研究的に発展させてまとめて、論文採録の条件を満たすと思われる内容は、学会論文誌に投稿することができます。

ページ数が限られていることから、タイトル、著者、内容については十分厳選の上、ご執筆下さい。

特に、ショートレターの趣旨から、多人数の連名著者はさけてください。研究全体がプロジェクトチームによる共同研究であっても、実際にショートレターの限られた内容に直接携わり、執筆した研究者にしてくださいようお願い致します。

ショートレターの査読日程予定(平成 17 年度):

- 4 月中 担当及び査読者の指名
- 5 月 編集委員会で査読進捗状況の確認
- 7 月 編集委員会で採録、返戻の第 1 回決定
- 9 月 編集委員会で採録、返戻の第 2 回決定
- 10 月 最終原稿の提出
- 11 月 著者校正
- 12 月 増刊号発行予定

投稿論文の送付先:

日本教育工学会 編集委員会 事務局  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-17-1  
虎ノ門 5 森ビル 2F

電子投稿でも受け付けています。

<http://www.jset.gr.jp/>

## 日本教育工学会論文誌特集号・論文募集のお知らせ

テーマ 実践段階のeラーニング  
発行予定 2005年 10月  
論文投稿締切日 2005年 2月7日(月)

### 主旨

ブロードバンド環境の急速な普及により、eラーニング(情報通信技術を用いた遠隔教育: WBT, CSCL, 授業映像の配信, 遠隔講義など)は企業内教育から高等教育、初等中等教育まで幅広い分野で活用されるようになってきました。eラーニングは実験段階から実践段階へ移行しつつあるといえるでしょう。

実践段階に入ると、実験段階とは違った問題がでてきます。今までeラーニングで提供されてこなかった新しい領域のためのプログラム開発、日本という地域性に配慮した教育方法の開発、様々な教育技術の統合的利用の原則の明確化、教育の質保証のための評価手法の開発など、eラーニングが普及するまでに解決しなければならない課題は数多くあります。そこで、日本教育工学会では、実践段階に入ったeラーニングについて、今後の普及のために必要な研究を幅広く扱った特集号を企画し、下記要領により論文を募集することにしました。

対象は初等・中等教育、高等教育、生涯教育・企業内教育など、幅広くとらえております。これらの分野で研究や教育実践をしておられる会員各位にはふるってご投稿くださいますようお願いいたします。

### 対象となる研究

- ・eラーニングの発展状況に関する調査研究
- ・既存のeラーニングの問題点を解決するための開発研究
- ・インストラクショナルデザインに関する理論研究
- ・eラーニングの評価手法に関する研究
- ・モデレーションや制度・組織に関する研究
- ・新しい領域におけるeラーニング実践研究
- ・その他実践段階のeラーニングに関するあらゆる研究

### 募集論文の種類

通常の論文誌同様に、論文、資料、寄書を募集します。投稿規程ならびに査読は、通常の論文誌の場合と同じです(ウェブを参照: <http://www.jset.gr.jp/thesis/kitei.html>)。ショートレターとして既に掲載されている内容あるいは研究会や全国大会で発表された内容を発展させ、論文として投稿することも可能です。なお、内容が特集号の主旨と異なっている場合に一般誌として査読を受けていただくこともありますので、あらかじめご了解ください。

### 論文送付先

日本教育工学会編集委員会  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル2F

### 特集号編集委員会

永岡慶三 (早稲田大学)	赤倉貴子 (東京理科大学)
赤堀侃司 (東京工業大学)	鈴木克明 (岩手県立大学)
平嶋 宗 (広島大学)	福原美三 (NTTレゾナント)
堀田龍也 (静岡大学)	松居辰則 (早稲田大学)
牟田博光 (東京工業大学)	山内祐平 (東京大学)
山田恒夫 (メディア教育開発センター)	

### 問い合わせ・ウェブサイト

editor@jset.gr.jp <http://www.jset.gr.jp/>

# 日本教育工学会「冬の合宿研究会」開催案内(第2報)

## 高等教育における教育方法としてのe-Learning

この度の冬の合宿研究会は、高等教育でe-Learningを実施している研究者・実践者とその実施に関心のある研究者・実践者による体験、経験交流、学びのためのワークショップとして実施することを計画しています。ここではとくに、最近話題となっているプロフェッショナル・トレーニング(専門職教育)、なかでも教師教育を中心としながら、高等教育における多様なe-Learningを取り扱いたいと考えています。今回は、将来の実施を検討している参加者には、これまで参加者がPowerPoint等で行っていたプレゼンの内容をじっさいにe-Learningに乗せてみる体験の機会も提供します。また、e-Learningの実践と評価、e-Learningの学習理論と技術、e-Learningによる専門職教育など、e-Learningをめぐるさまざまな観点からのレクチャーとディスカッションを設定します。学部学生や大学院生を対象に、遠隔授業あるいはオン・キャンパスでe-Learningを利用している方、将来行うことに関心を持っておられる方の参加を募ります。

### 1. 日時・会場等

日時：2005年3月7日(月)14:00 - 3月8日(火)15:00

会場：上越教育大学 学校教育総合研究センター(西城地区)JR信越線高田駅 下車徒歩15分

### 2. 費用と宿泊

参加費：7,000円(資料代・会場費等1,000円 昼食代1,000円 夕食会費5,000円)

宿泊：宿泊施設がないため、ホテル等に宿泊して頂きます。ご希望の方には近隣の宿をご紹介します。

### 3. 参加申込みおよび宿泊斡旋の手続き

次のサイトからお申し込み下さい。 <http://it1.nara-edu.ac.jp/ed-plan/>

### 4. 内容とスケジュール(多少変更される可能性があります。)

#### <3月7日(月)>

13:30-14:10 受け付け・事務連絡

14:10-14:30 オリエンテーション「高等教育におけるe-Learning〔仮題〕」大谷 尚(企画委員会委員長・名古屋大学)

14:30-16:00 基調講演「e-Learningの現在・過去・未来」岡本敏雄(電気通信大学大学院)

16:15-17:15 レクチャーとディスカッション/第1テーマ<e-Learningの実践と評価>

・堀田博史(園田学園女子大学)大学・社会人対象・高大連携など、組織・体制・評価の枠組の立場から

・益子典文(岐阜大学)インターネット型大学院の実践内容について、ITを活用した実践的遠隔教育の立場から

17:30-18:30 レクチャーとディスカッション/第2テーマ<e-Learningの学習理論と技術(講師交渉中)>

18:30-20:00 夕食会(センター内)

20:00-21:00 レクチャーとディスカッション/第3テーマ<e-Learningによる専門職教育(講師交渉中)>

21:15-21:45 レクチャーとディスカッション/関連トピック<e-Learningを用いた他の分野での専門職教育>

・金子大輔(名古屋大学)法科大学院における実務技能教育をe-learningを用いて実現する立場から

#### <3月8日(火)>

9:00- 9:40 受け付け・事務連絡

9:40-11:00 分科会討論(話題提供者を中心として討論し、現状・問題・課題をまとめて全体会でのプレゼンを準備)

11:00-12:00 ワークショップ:「e-Learningコンテンツの作成」

(各分科会のプレゼンをe-Learningのプラットフォーム上にコンテンツとして登録する実習)

12:00-13:30 昼食(上記と同様にご自分の講義等のプレゼンをe-Learningコンテンツにしてみる等の体験が可能)

13:30-14:30 全体会での発表(e-Learningプラットフォームに登録されたコンテンツを利用して発表)

14:30-14:50 総括：南部昌敏(企画委員会副委員長・上越教育大学)

14:50-15:00 閉会

最新の情報はWeb上で逐一公開していきますのでご覧下さい。 <http://it1.nara-edu.ac.jp/ed-plan/>



## 研究会の開催

## テーマ 国際交流と教育工学

日 時：2005年1月22日(土)  
 会 場：長崎大学文教キャンパス(長崎市)  
 開催担当：藤木 卓(長崎大学教育学部)

研究会は当日受付にて同研究会の報告集(1,000円)をご購入いただければ、一般の方でも参加可能です。  
 プログラム： 発表時間：発表1件につき25分(発表20分程度、質疑5分程度)の持ち時間です。

開会挨拶・諸連絡 9:30~9:40

午前の部(9:40~12:00)

- (1) 情報通信技術を伴った教育分野における国際協力と人材開発  
 大作 勝(長崎大学アドミッションセンター)
- (2) 国際遠隔授業における教師・生徒間の発言時間に関する考察  
 山下浩次(長崎大学大学院教育学研究科), 藤木卓, 森田裕介, 全炳徳, 柳生大輔, 上園恒太郎, 中村千秋(長崎大学), 李相秀(釜山大学), 渡辺健次(佐賀大学), 下川俊彦(九州産業大学)
- (3) 日韓遠隔交流・学習を支援する多言語同時表示に関する検討  
 藤木 卓, 野口亜由美, 森田裕介(長崎大学), 芦塚沙希(エル・エス・アイ)
- (4) 教員養成課程の学生を対象とした、ものづくりに関する実態調査  
 瀬戸崎典夫(長崎大学大学院教育学研究科), 森田裕介, 藤木卓(長崎大学)
- (5) 日韓共同での日本語・日本文化教育の実践と支援  
 井上 仁(九州大学情報基盤センター), 岡崎智己, 後藤幸功, 多川孝央(九州大学), 張南瑚(忠南大学校)

<午前の部の発表に関する討議>(15分)

----- お昼休み(12:00~13:00) -----

午後前半の部(13:00~14:40)

- (6) 機械翻訳によるグローバル・コミュニケーションの可能性と特質について  
 長瀬久明(兵庫教育大学)
- (7) 養護教諭の情報交流のためのblog考  
 若嶋清人(湊川短期大学), 森廣浩一郎(兵庫教育大学)
- (8) 言語不安に着目したE-learning日本語教育 - ベトナムと中国の学生を対象として -  
 西谷まり(一橋大学留学生センター), 松田稔樹(東京工業大学)
- (9) メディアと国際交流：大学における国際交流活動に関するアンケート調査の結果より  
 青木久美子, 小林登志生(メディア教育開発センター)

----- 休憩(14:40~14:50) -----

午後後半の部(14:50~16:20)

- (10) 超鏡を用いた国際交流実践の授業デザイン  
 今井亜湖(岐阜大学)
- (11) 南太平洋大学における遠隔教育実態調査に基づくワークショップの企画と実施  
 根本淳子, 鈴木克明(岩手県立大学)
- (12) CMSの比較分析と講義に適したCMS選択のガイドライン提案  
 田中裕也, 井ノ上賢司, 根本淳子, 鈴木克明(岩手県立大学)

<午後の部の発表に関する討議>(15分)

閉会挨拶 16:20~16:30

会場：長崎大学 文教キャンパス 〒852-8521 長崎市文教町1-14

・周辺地図：<http://www.nagasaki-u.ac.jp/guidance/access.html>

・キャンパス内地図：[http://www.nagasaki-u.ac.jp/guidance/acs\\_cps1.html](http://www.nagasaki-u.ac.jp/guidance/acs_cps1.html)

・アクセス方法： バス利用：「長崎駅前」から「滑石(なめし)」「時津(ときつ)」等方面1番系統の長崎バスで、「長崎大学前」下車(約20分)

電車利用：「長崎駅前」から「赤迫(あかさこ)」行き(系統1・3)「長崎大学前」で下車(約20分)

会場連絡先：(藤木 卓) TEL: 095-819-2363

### 研究報告集年間購読のお勧め

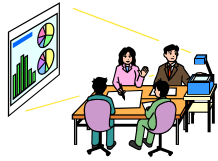


研究会の報告集は、会員・非会員に関係なく年間予約により購読できます。予約価格は年6冊、各研究会平均10件前後の研究発表で、年間合計500ページ前後になります。価格は郵送料込みで3,500円です(当日売りは割高になります)。詳しくは、学会本部事務局までお問い合わせください。

【学会本部事務局】〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル)2階

TEL/FAX: 03-5251-2133 E-mail: office@jset.gr.jp

## 研究会の発表募集



### 学校改善・授業改善と教師教育

日 時：2005年3月19日（土）  
会 場：鳴門教育大学（徳島県鳴門市）  
開催担当：藤村裕一（鳴門教育大学）  
申込締切：2005年 1月19日（水）  
原稿提出：2005年 2月19日（土）

\* 原稿は、PDF形式で電子的に提出することもできます。

#### 募集内容：

近年 教育改革に伴う学校改善・授業改善の重要性が叫ばれ、そのための教師教育の充実が求められています。本研究会では、そのような学校改善・授業改善のための教師教育に関する研究発表を幅広く募集します。

**応募方法：**研究会Web Pageの「発表申し込みフォーム」よりお申し込みください。

**申し込み締切：**  
2004年 1月19日（水）

締切後、申し込まれた方宛に発表の採択結果を電子メー

ルにて連絡いたします。また、採択された方には執筆要項を電子メールにて送付いたします。

#### 原稿提出期限：

**2005年 2月19日（土）必着（厳守！）**でお願いいたします。執筆要項に記載された宛先にお送りください。なお、PDF形式（サイズは1Mバイト未満）での原稿の電子的な提出を受け付けます。提出先は、学会本部事務局（jet-submit@nime.ac.jp）です。電子メールに添付して送ってください。

## 研究会の今後の予定

今後の研究会開催予定は下記の通りです（は依頼中または検討中です）。本年度は、全国大会が開催される9月には研究会を開催せず、発表件数の多くなる年度末、2月に研究会を開催します。

2005年2月19日（土）	確かな学力と授業実践	メディア教育開発センター
2005年3月19日（土）	学校改善・授業改善と教師教育	鳴門教育大学
2005年5月	多様な遠隔教育の実践と評価	北海道教育大学（ ）

## 研究会委員会からのお知らせ

研究会に関するご意見・ご希望、魅力的な研究会テーマの提案、研究会での企画などをお気軽に研究会幹事、委員までご連絡ください。連絡先は次の通りです。

（研究会全般、研究会Web Page、研究会発表の申込、変更等、原稿執筆）に関するお問い合わせ

研究会幹事 jet-branch@nime.ac.jp  
学会本部事務局 office@jset.gr.jp

（年間購読、原稿提出）に関するお問い合わせ

## 研究会の報告

11月20日（土）に「教育の情報化～デジタルコンテンツを活用した授業実践と評価」をテーマに研究会が開催された。会場は東北学院大学泉キャンパスであった。全国大会直後の発表締切であったにもかかわらず16件の研究発表が行われ、当日の参加者は約50名と大変盛況であった。「2005年度までに、すべての小中高等学校等が各学級の授業においてコンピュータを活用できる環境を整備する」ことを目標とした「e-Japan重点計画」も佳境を迎えている。整備状況に地域差はあるものの、整備されたものが有効に活用され、着実に学習効果を挙げているのか評価が問われるフェーズに入りつつある。デジタルコンテンツを活用した授業実践に対する評価には、学習効果の検証、コンテンツに対する評価、授業評価、コンテンツを活用できる環境やシステムに対する評価など多様な側面がある。発表では小学校のコンテンツを利用した授業に対する評価、小中学校の授業分析システム、コンテンツ流通環境に対する評価、高校の教科情報におけるコンテンツ開発、大学のeラーニング向けのコンテンツ開発から運用評価まで幅広く教育の情報化を検証する試みが示され、活発な質疑が行われた。



11月研究会開催担当：稲垣 忠（東北学院大学教養学部）

# 日本教育工学会2004年度秋の合宿研究会

10月30日(土)～31日(日)に、熊本県阿蘇郡の「ひのくに会館」を会場にして、2004年度秋の合宿研究会が開催された。テーマは、「IT活用実践の普及戦略」である。それに迫るために、2日間のプログラムに、基調講演、事例報告、課題別分科会、アフターディナーレクチャー、パネルディスカッション&オープンディスカッション、そして総括講演という6セッションが設けられた。

学校行事等も多い時期の土日にもかかわらず、IT活用実践の普及戦略に関心を抱く、61名の研究者や実践家が秋の阿蘇に集った。以下、本合宿研究会の模様を、プログラムに即してお伝える。

## 1. 基調講演

大阪教育大学の田中博之氏に「IT活用と学力向上、学校改革」というタイトルで、基調講演を担当していただいた。氏はまず、21世紀の学力を、教科学力、生きる力、そして「学びの基礎力」という3つの要素からなる構造によって概念化した。次いで、教科学力の形成に資するIT活用のパターンを、既成のコンテンツの活用 - 子どもの作品制作、問題解決型の学習 - 一斉・個別指導という2軸からなる4象限に整理した。また、教科学力の下位概念に照らして、デジタルコンテンツを類型化した。さらに、情報環境整備のポイント、情報活用を志向した学習活動モデル、同単元モデルを解説した。



講演の最後に、田中氏は、IT活用と学力向上、学校改革を接続するためには、いかに学校長がリーダーシップを発揮しなければならないかについても言及した。

## 2. 事例の報告と検討

このセッションではまず、熊本市立力合小学校の上妻薫氏が、所属校におけるIT活用や情報教育の実践史を語った。教師のIT活用スキル向上のための校内研修、授業の様々な場面におけるIT活用、子どもの情報活用能力向上を目指したプロジェクト学習などについて、その実際が紹介された。また、2年間の研究的実践の成果と課題が示された。

上妻報告に対して、和歌山大学の野中陽一氏から、補足説明が要請された。両者の意見交換の中から、例えば、「使ってみることからニーズが生まれるので、やはり情報機器環境の整備は重要である」、「IT利用の苦手な先生が使うようになると、ITを活用する先生が増える」といったIT活用実践の普及戦略や指標が確認された。

## 3. 課題別分科会

課題別分科会では、1) 確かな学力の育成に資するIT活用のデザイン、2) 各教科におけるIT活用の展開、3) IT活用普及に向けた研修の工夫・改善、4) IT活用の校内・地域支援体制の充実という4つの部会が設けられ、それぞれにおいて、すぐれた実践が報告された。

例えば、1) では、熊本大学教育学部附属小学校の宮脇真一氏が、児童の知的好奇心を高めるためのコンテンツの開発や彼らの数学的な考え方を充実させるためのIT活用法について、自らの実践事例をもとに報告した。また、兵庫県氷上郡氷上町立氷上西小学校の細見隆昭氏が、個に応じた算数指導の取り組みにおけるIT活用等の実際について述べた。

また、4) では、熊本県立教育センターの戸田俊文氏が、「協働」をキーワードにした教員研修用e-Learningの取り組み、その実際、成果と課題を報告した。また、鳴門教育大学・大学院の中川斉史氏が、地域の教育情報化コーディネータによる校内情報化推進リーダー教師への支援モデル・システムを紹介した。

各分科会では、報告の後、座長のリーダーシップの下、IT活用のあり方、その普及に向けた課題等についての議論が繰り広げられた。



#### 4. アフターディナーレクチャー

懇親会で参加者間のコミュニケーションがさらに密になった後、東京大学の山内祐平氏より、「デジタル社会のリテラシー」に関する講義が催された。氏は、デジタル社会に期待されるリテラシーを、情報リテラシー、メディアリテラシー、技術リテラシーに整理し、それらの相互関係や系譜を解説した。次いで、デジタル社会のリテラシーを統合的に育成するための営みとして、山内氏らが試みている「メルプロジェクト」の活動を紹介した。中高校生を対象とするプロジェクト学習のデザインを、氏は、記録映像にて示したが、その真正性に、聴衆は、驚愕し、魅了された。

山内氏の報告後、フロアからいくつかの質問が出されたが、それらにより、メルプロジェクトの詳細が明らかになるとともに、デジタル社会のリテラシーに関する学びの可能性や成立条件などが浮き彫りになった。

#### 5. パネルディスカッション&オープンディスカッション

前日深夜まで繰り広げられた懇親の集いにおける熱い議論を踏まえて、大阪市立大学の木原俊行氏の司会の下、「すべての教員がITを活用した授業を創造するために」という題目で、パネルディスカッション&オープンディスカッションが企画・運営された。

まず、前日の課題別分科会1)~4)の座長、すなわち、金城学院大学の長谷川元洋氏、兵庫教育大学の永田智子氏、東京理科大学の赤倉貴子氏、奈良教育大学の伊藤剛和氏がそれぞれ、分科会の報告・討論の内容を整理して提示した。例えば、2)各教科におけるIT活用の展開では、コンテンツの発見・選択・作成が個人レベルと地域・全国レベルの2次元で推進される必要性を確認したことが示された。また、3)IT活用普及に向けた研修の工夫・改善では、校内でIT活用のリーダーになる人材の能力・資質について検討したことが語られた。



続いて、参加者全員による自由な意見交換の時間が確保された。IT活用実践の普及戦略について少人数でディスカッションしてもらったところ、トップダウンとボトムアップの両全の可能性、授業研究にIT活用を位置づけることの重要性、IT活用に関する校内のリーダーが同僚を個別的にサポートする必要性などが確認された。

#### 6. 総括講演

2日間にわたる合宿研究会の報告や議論を総括するために、静岡大学の堀田龍也氏に、講演をお願いした。堀田氏は、IT活用実践普及の困難点、簡単で有効なIT活用授業、IT活用の意義などについて確認した後、IT活用実践普及に向けたアクションとして、授業や学校のマネジメント力の向上、研修の内容・方法の改革、企業と学校の関係性の構築や改善などについて言及した。

以上のようなセッションにおける提案や議論を経て、IT活用実践の普及戦略は、そのきめ細かさが問われることが明らかになった。それが、本合宿研究会の成果である。

なお、本合宿研究会を成功裡に終わることができたのは、現地で準備にあたっていただいた「熊本市コンピュータ教育研究会」の先生方の努力に寄るところが大きい。紙面を借りて、同研究会のご協力に厚く御礼申し上げる。

## 秋の産学協同セミナー

「教育ソフト鑑定団2 ネット時代のソフト活用と教育実践」

標記セミナーが、2004年11月12日（金）午後1:30～5:30に、東京都千代田区日本教育会館9階第五会議室で、約70名の参加者を得て開催された。はじめに、大谷尚（企画委員会委員長・名古屋大学）から、このセミナーが、昨年の同名のセミナーで、教育ソフトの評価は実際に教育実践で使った「エビデンス」をもとに行われなければならないという点で一致したことを受けて、今回、教育現場の先生方からのプレゼンテーションを交えて検討することになったという趣旨説明が行われた。続いて、鑑定団員の佐伯胖氏（青山学院大学）、東原義訓氏（信州大学）、堀口秀嗣氏（常磐大学）から、それぞれの鑑定の立場について自己紹介があった。

第1部「ネット時代の教育ソフト鑑定団」では、学校教育用グループウェア「スタディノート」について八王子市立七国小学校の福島健介教諭とシャープシステムプロダクト株式会社から、提示型一斉授業支援ソフト「デジタル掛図」について板橋区立成増小学校の鈴木明彦教諭と東京書籍株式会社から、授業用ブラウザソフト「サイトくん3」について所沢市立狭山ヶ丘中学校の小林泰義教諭とTDK株式会社から、実際の活用にもとづくプレゼンテーションがおこなわれ、それぞれ、鑑定団員との間の質疑応答や意見交換が行われた。ここでは、ソフトをもちいた保護者や地域との関わり、ソフトのシームレスな特徴と学習での機能について（スタディーノート）、音読などの活動をたくさんさせる可能性、免許外教科の担当のときの有効性、教師の役割の変化（デジタル掛図）、検索の構造と授業で習う諸概念の構造の関係、制約をかけることで検索を実現させること（サイトくん3）などについて議論された。また、フロアからは、ソフトの制約が子どもの活動を支援する（例：文字制限という制約が「まとめ」という作業に有効）という可能性について述べられ、議論された。

休憩をはさんで第2部：パネルディスカッション「ネット時代のソフト活用と教育実践」が行われ、上記4名の鑑定団員に加えて東京書籍の川瀬徹氏がディスカッサントに加わった。ここでは、ネットワーク時代と教育ソフトの関係、学んだことの位置づけ（学習の終わり）の重要性とソフト活用によるそれがなくなる危険性、教育ソフトが学校的な価値観や規範を一層高進することに対する危惧、フィルタリングの問題などが検討された。

フロアからは、授業の多様性が保証されなければソフトが使われないという問題、e-Japan計画の遂行の問題、ソフトを使った実践の現場での評価の問題、年間指導計画におけるIT活用の問題、ソフト会社も見識をもって授業を評価すべきという期待、現場でのソフトの違法なコピーの問題などが話し合われた。最後に鑑定団員から、児童・生徒によるソフトの評価や、いわゆる底辺校での活用の試みの必要性、また幼児教育での活用の可能性などについて期待や展望が述べられ、充実したセミナーを終えることができた。

本企画の実施にあたり、協力して下さった企業各位と、とくに平日であるにもかかわらず参加して下さいました3教諭に、この場を借りて深い謝意を表す。



## 日本教育工学会第10期第13回理事会議事録

日時：平成16年11月27日（土）15:00～17:00

場所：社団法人日本教育工学振興会（JAPET）

出席：清水康敬会長、近藤 勲副会長、山西潤一副会長、向後千春、坂元昂、澤本和子、  
三宮真智子、園屋高志、堀田龍也、前迫孝憲、村川雅弘、小林常一事務局次長

1．第10期第12回理事・評議員会議事録を承認した。

2．会員の移動について

新入会員32名（正会員20名、准会員1名、学生会員11名）、退会会員2名（学生会員2名）、  
種別変更3名（正会員へ3名）を承認した。

3．各種委員会報告について

(1) 編集委員会 向後委員より資料3に基づき、論文誌の編集状況の説明があった。

(2) 企画委員会 清水会長より資料4に基づき、秋の合宿研究会、産学協同セミナーとも充実していた等の説明があった。

(3) 研究会委員会 村川委員長より配布資料に基づき、開催状況や今後の予定について説明があった。また、今後シンポジウム等の委員旅費について検討することとなった。

(4) 大会企画委員会 園屋委員長より大会は盛況であったとの報告があった。また、清水会長より資料5に基づき、実行委員会収支報告の説明があった。また、来年度は選挙のため、交代となる新委員長は任期中とし、課題研究のテーマを刷新する意味からも委員任期を2年とする等の説明があった。

(5) 学会ホームページ 清水会長より、過去の発表データベースを試験運用中であることの説明があり、公開することとなった。また将来、国立情報学研究所の論文コピーを有料化し、学会員（無料）のメリットを明確化する等の説明があった。

(6) 顕彰委員会 三宮委員長より他学会の賞典、特にユニークな賞についての調査報告があった。そして清水会長より、20周年記念の新しい賞は設けないとの意向が示された。また、現在の賞の選考、特に奨励賞については、日常活動を反映する方法等について継続して検討を行うこととした。

(7) 選挙管理委員会 澤本委員長より資料6に基づき、次年度の役員選挙の日程や進め方等について説明があった。また清水会長より、向後理事への委員追加依頼等の説明があり、承認した。

(8) 20周年記念事業 清水会長より、論文データベースや大会事務処理等学会の電子化が順調に進行中であることの説明があった。

(9) ニュースレター委員会 堀田委員長より資料7に基づき説明があった。

4．学会ホームページの管理・運営について

清水会長より、従来のJAPETサーバから学会独自ドメインへの移行に伴い、委員会等の情報掲載に当たって、新しいサーバ管理委託業者に直接メール依頼する方法に変えることが承認され、手順を整備することとなった。

5．その他

・後援依頼の承諾について（報告）2件

財団法人コンピュータ教育開発センター、 独立行政法人国立国語研究所

・協賛依頼の承諾について（報告）2件

社団法人日本工学教育協会、 日本知能情報ファジィ学会

・中国電化教育館から論文誌交換の依頼（前迫理事）、AECTを訪問し学会を紹介した際に台湾等3か国の教育工学関連学会から問い合わせ（清水会長）、吉林等中国各地の教育工学関係者から研究交流希望（近藤副会長）、トルコ、ポーランド、ウズベキスタン、タイの訪問報告（坂元理事）

・今後の理事会の日程について

第10期第14回理事会：平成17年1月29日（土）15:00～17:00

第10期第15回理事会：平成17年3月26日（土）15:00～17:00

以上

お知らせ

広島大学大学院工学研究科情報工学専攻知識情報工学講座(データベース工学教育科目)では、「人間の知的活動を活性化するソフトウェアシステム」を専門分野として助教授1名を公募しています。詳細はhttp://www.huis.hiroshima-u.ac.jp/をご覧ください。応募締め切りは平成17年3月31日です。お問い合わせは、情報工学専攻 教授 平嶋 宗 tsukasa@isl.hiroshima-u.ac.jp までお願いします。

新入会員

(2004年9月25日~2004年11月27日)

■ 正 会 員 20名

有馬 昌英(福井県立福井東養護学校)  
飯田 洋市(諏訪東京理科大学)  
五十嵐 義行(東京国際大学)  
岩沢 和男(広島大学)  
内海 成治(大阪大学)  
大貫 恵理子(株)徳間書店)  
越智 洋司(近畿大学)  
久保田 美子  
(国際交流基金 日本語国際センター)  
小坂 隆浩(同志社大学)  
佐藤 正子(東京慈恵会医科大学)

新間 竹彦(有限会社シンマ)  
中井 俊樹(名古屋大学)  
長岡 健(産能大学)  
中島 英博(名古屋大学)  
西村 博人(修道中学校・修道高等学校)  
額田 順二(横浜国立大学)  
長谷川 忍(北陸先端科学技術大学院大学)  
原田 茂(熊本県立小川工業高等学校)  
松岡 守(三重大学)  
和田 一郎

■ 准 会 員 1名

池田 航(兵庫県立高砂南高等学校)

■ 学 生 会 員 11名

浅羽 修丈(神戸大学)  
白杵 美紀(早稲田大学大学院)  
加藤 有香(兵庫教育大学大学院)  
小高 さほみ(お茶の水女子大学大学院)  
田中 佳子(神戸外語大学大学院)  
陳 輝(大阪教育大学大学院)  
永井 隆温(関西大学大学院)  
根本 俊介(いわき明星大学)  
山下 麻理子(早稲田大学大学院)  
山田 啓介(神戸大学大学院)  
吉田 徹(北海道大学大学院)

学会日誌

- 1月22日(土)研究会「国際交流と教育工学」(長崎大学)
- 1月29日(土)理事会・編集委員会(JAPET)
- 2月19日(土)研究会「確かな学力と授業実践」(メディア教育開発センター)
- 3月7日(月)~8日(火)冬の合宿研究会(上越教育大学)
- 3月19日(土)研究会「学校改善・授業改善と教師教育」(鳴門教育大学)
- 3月26日(土)理事会・編集委員会(JAPET)
- 6月18日(土)総会・シンポジウム(東京工業大学)
- 9月23日(金)~25日(日)第21回全国大会(徳島大学)

お問い合わせ先(Eメールアドレス)

論文投稿に関するお問い合わせ・・・編集委員会(editor@jset.gr.jp)  
研究会の開催についてのお問い合わせ・・・研究会事務局(jet-branch@nime.ac.jp)  
ニューズレター編集に関するお問い合わせ・・・ニューズレター編集委員会(jet-news@japet.jp)  
その他の掲載記事に関するお問い合わせ・・・学会事務局(office@jset.gr.jp)

ニューズレター編集委員会

編集長:坂元 昂,編集委員長:堀田龍也,委員:小柳和喜雄,石塚丈晴  
静岡大学情報学部堀田研究室 FAX: 053-412-6558 E-mail: jet-news@japet.jp

日本教育工学会ニューズレター No.133

2005年1月12日 発行人 清水 康敬  
発行所 日本教育工学会事務局  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル) 2階  
TEL / FAX: 03-5251-2133 E-mail: office@jset.gr.jp  
http://www.jset.gr.jp/ 郵便振替 00180-0-111042